

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.36
2015. December

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

包括的暴力防止プログラム (CVPPP) トレーナー養成研修を開催して

西皿病棟看護師長 金城 則子

包括的暴力防止プログラム (CVPPP) は、2004年に「包括的暴力防止プログラム (CVPPP) トレーナー養成研修」として研修が始まりました。当院では、2011年よりCVPPP チームを充足し、院内・外の医療職を対象にCVPPP研修を開催しています。「包括的暴力防止プログラム (CVPPP)」とは、包括的に暴力を、予防、そして防止するためのプログラムです。

CVPPPは、ただ単に身体的な暴力行為を力で抑止するものではなく、「リスクアセスメント」「ディエスカレーション」「チームテクニクス」「ブレイクアウェイ」「ディブリーフィング」という5つの構成要素が含まれ、系統的で包括的なプログラムになっています。研修内容は、5つの構成要素である専門的な用語とその理解、介入方法が学べる研修になっています。「暴力が起こらないように介入することで、暴力によって不利益から患者さんを守り、なおかつ患者さんが攻撃的でない手法で現実の問題に対処できるよう、患者さんと同じ立場に立って援助する」という、より積極的な視点が必要になり、患者さんも私たち自身も守ることになります。

今回、11月9日(月)～11月12日(木) (4日間)の期間で「院外CVPPPトレーナー養成コース研修」を開催しました。受講者は沖縄県内10施設より21名で、遠くは宮古島や石垣島から参加していただきました。受講者全員、モチベーションが高く、研修開始当初からとても積極的に真剣に取り組んでおり意気込みが伝わってきました。暴力場面におけるロールプレーでも、チームの迫力ある演技に冷静な態度で対応することができており、受講者の質の高さを感じられました。研修終了後のアンケートでは「日頃からのリスクアセスメントが必要で対策を行っていくことが予防に繋がる」、「交渉を重点的に行っていきたい」等の意見が聞かれ、また、チームメンバーに対して「SST的な褒める・拍手・握手を効果的に取り入れることで受講する側のモチベーションが高まる。心情的にとっても好印象を受けた」との意見をいただきました。研修中はCVPPPの知識・技術・態度を学ぶだけでなく、各施設間の交流の場ともなりました。今後、お互いに情報交換や連携を通し切磋琢磨していけたらと思っています。当院には院外講師ができるインストラクターが2名、また職員全体の60%がトレーナーを取得しています。全ての職員がCVPPPという概念を理解した上で、暴力防止に向けて取り組む必要があります。そのためには今後もCVPPP研修の継続的活動が出来るよう、チームの育成に努めていきたいと思えます。



院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院院長に就任。日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期 ユニット 4床
- ・重症心身 障がい 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



アクセス

路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス [77番名護東線] 浜田バス停下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
進捗状況 本体工事：請負業者 電気設備 (株)九電工
機械設備 (株)三建設工業
建築(第2期)工事 (株)浅沼組
新病棟(第1期工事)完成 平成27年7月

教育・研修

- 金武町健康福祉祭り参加 12月6日(日) 9:00～16:00 場所：町立体育館
血圧測定・体脂肪測定・栄養相談・健康相談等
- CVPPPフォローアップ研修(1日) 12月8日(火) 8:30～17:00 場所：研修棟会議室・北棟1階 ジム室
- ダンスパーティー 12月10日(木) 14:00～15:00 場所：あしびなあ体育館
- 北I病棟主催クラブ研修 12月22日(火) 8:30～17:00 場所：研修棟会議室 対象：行政職員

地域医療連携室だより

これからお酒を飲む機会が増える時期となります。ご自身の飲酒について「減らしたい」「止めたい」とお悩みの方、ご家族の飲酒についてお困りの方のご相談をお受けしています。飲酒欲求を少し抑えてくれるような薬の処方や飲酒問題をもつご家族にどう対応していけばよいか学べる家族教室もあります。ひとりで悩まずに専門医療機関にお気軽にご相談下さい。

お問い合わせ時間

8:30～17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370



空床状況
11月25日現在

精神科病棟
10床

認知症
2床

アルコール
10床

児童思春期ユニット
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目のクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例は152例になりました。これまでにCLZ治療前に暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離をしていた患者様も多くいましたが、CLZ継続例では問題行動もなくなり、隔離は全て解除できています。重度の精神症状を持った患者様の病状がCLZ治療により改善しており、退院例も65例を超えています。週に3回の専門外来も行っていきますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っております。平成27年10月の治療実績は3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

当院では今年度から沖縄県の委託を受け、こどもの心の診療拠点ネットワーク事業を展開しています。事業の1つに離島支援があります。11月16日に宮古島を訪問し、宮古病院、宮古市役所（健康増進課、こども家庭課、障がい福祉課）、宮古島市教育委員会の方々とお会いし、宮古島のこどもの心の診療について情報交換を行いました。今後、石垣島にも伺う予定です。県内ではいろいろな機関やいろいろな立場で子どもたちのサポートが行われています。それぞれが役割分担しながら、必要な支援が必要なときに届けられるよう、県内のこどもの心に関するネットワーク作りを進めていきたいと考えています。こどものこころの診療に関するご相談、ご要望がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

認知症医療

家族会のお知らせ

ご家族に認知症の患者様がいらっしゃる方を対象とした、「認知症患者家族会」を平成28年1月から毎月第4木曜日に月1回のペースでスタートします。

初回は1月28日（木）の午後2時から3時の1時間、場所は琉球病院研修棟の会議室です。家族会終了後も質問や相談がある方には認知症専門スタッフが対応します。

家族会の内容は、認知症に対する基本的な知識を深める勉強会とともに、認知症患者を身内に持つ家族同士の交流を深める場にしていく予定です。勉強会の内容は認知症の理解や認知症患者とのかわり方、生活上の工夫など、毎回新しいテーマで行います。家族同士の交流の場では具体的な実践事例を学ぶほか、認知症になった家族をどう受け止めるかなど、認知症患者を抱える自分の気持ちの整理が出来るのではないかと思います。

家族会を通して、認知症の身内を抱えていても、自分の生活を犠牲にすることなく、家族全員が充実感を持って1人ひとり自分の人生を生きていける術を身につけてもらえたらと願っています。

問い合わせ先：琉球病院地域医療連携室 ソーシャルワーカー伊波 Tel 098-968-3550

重症心身障がい医療

今月は看護師についてご紹介します。当病棟での看護は、かなり特殊です。当然ながら看護師は、感染症・肺炎・怪我などが起こった場合は処置を迅速に行っていますが、何より大変なのは看護師が利用者の異常に気付いてあげる必要が有ることです。利用者の方々のほとんどは、自ら体調不良等を訴えることが出来ません。日常生活支援や関わりを通して利用者さんの「普通」の状態を把握し、「異常」の際には、検査やレントゲンを通じて、出来る限り早期発見に努めるようにしています。このような難しさがある病棟ですが、利用者さんが笑顔で穏やかに過ごす様子を見て、喜びや慈しみを感じることでモチベーションとしているような気がします。頭を軽く叩かれながらも笑顔で更衣を続けるベテラン看護師さん、しつこく更衣要求されても毎回応じてあげる女性看護師さん等、病棟スタッフは、利用者さんの個性も大切にしながら、ケアにあたっています。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では10月現在、外来通院の患者様68名、入院中の患者様20名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

年末になり、気温の変化が大きく、体調管理が難しくなる時期です。訪問看護は、普段の病状の見守り以外に、風邪の予防対策について患者様の健康管理の方法を確認しながら説明を加えています。12月に行われるさまざまなイベントで生活リズムが守れなくなる、飲酒する機会が増えてくる等のことが予測されますので、病状管理も大切になってきます。今年1年を振り返り、自分らしい生活が行えたでしょうか。来年は、今年より、さらに良い年になるよう、訪問利用者様の気持ちに寄り添い共にさらなる活躍ができるようになりたいと思っています。

臨床研究部活動状況

長期入院患者の退院支援におけるアプローチ ―事例を通して見えてきた効果的な退院支援― 看護師 窪田聡

当院A病棟は1年以上の長期入院患者が90%を占め、家族の受け入れ困難や単身生活に不安があるなどの理由で退院できない現状にあります。今回入院期間が長く、退院拒否が強い患者様とご家族に対し退院支援に取り組みました。事例の詳細は割愛しますが、退院につながった考察として、患者様の健康的な部分を評価し、患者様の自己肯定感が向上したこと、患者様自身が退院後の生活スタイルを明確にイメージでき、安心を享受できたこと、ご家族の不安要因である「退院先」「経済的負担の軽減」「退院後の病状悪化時のフォロー」に関し、治療体制の保障を伝えたことも効果的と考えられました。